JACME Newsletter No. 4

一般社団法人 日本医学教育評価機構
Japan Accreditation Council for Medical Education

2019年7月 発行

巻頭言

わが国の医師養成に係る関係者の総意によって誕生したJACME

別所 正美［日本医学教育評価機構 副理事長］

前号（JACME Newsletter No.3）の巻頭言で、伴信太郎副理事長がJACME設立の経緯に触れ、JACMEが極めて迅速に設立されたことを「東南アジアの医学教育関係者から驚きをもって見られています」と述べている。確かに、2011年に全国医学部長病院長会議（AJMC）でこの問題が取り上げられてから4年後の2015年には、我が国の医師養成に係る関係者の総意に基づいてJACMEが設立され、2017年に世界医学教育連盟（WFME）の認証を受け、これまで順調な歩みを続けているのは、特筆に値することと言えよう。今回、巻頭言に寄稿する機会を得たので、JACME設立までの経緯を改めて振り返ってみたい。

ことの発端は、言うまでもなく、2010年9月に米国 外国医学部卒業生のための教育委員会（ECFMG）から発出されたメッセージである。このメッセージがAJMCで取り上げられたのは2011年5月の理事会・総会の時で、来賓として出席していた文部科学省の新木一弘医学教育課長（当時）からも「AJMCが中心になってECFMGからの通告に対応する」ことへの期待が述べられた。これを受け、黒岩義之会長（当時）から、評価組織はAJMCを中心に立ち上げることが提案され、この問題に対応するため、奈良信雄東京医科歯科大学教授（当時、現JACME常勤理事）を委員長とする「医学部・医科大学の教育評価に係る検討委員会」を設置することが決まった。同年11月のAJMC理事会で、森山寛会長（当時）の提案で、委員会の名称は「医学教育の質保証検討委員会」と改められた。翌2012年5月のAJMC総会では、来賓挨拶の中で村田善則医学教育課長（当時）から改めてAJMCへの期待が述べられた。その後、AJMC理事会・総会で度重なる検討が進められ、2013年5月のAJMC総会において、国際基準による医学教育の分野別評価を実施する組織を設立すること、その名称を「日本医学教育評価機構（JACME）」とすることが決議され、翌2014年5月の総会において、JACMEの設立に向けた準備に入ることが決定された。

JACME設立の具体的な作業として、先ず2014年9月に「JACME設立準備調整WG」が発足し、設立準備委員会を立ち上げるための準備が進められた。翌2015年3月に「JACME設立準備委員会」が設置され、3回の会議を経て、同年12月1日に一般社団法人としての登記が済み、JACMEが発足した。この間、文部科学省医学教育課の寺門成真課長および平子哲夫企画官そして厚生労働省医事課の北澤潤課長には、会員・役員の構成をはじめとして、JACME設立について種々の助言をいただいた。

各大学にとって、7年ごとに受審することが法で定められている機関別認証評価に加え、自主的に医学教育の分野別評価を受審することは、経済的にも、労力的にも大きな負担となる。このため、分野別評価の必要性は理解しつつも、大学によってはJACMEの設立について全学的な合意形成が困難なケースも考えられた。また、国立、公立、私立の間で温度差もみられた。JACMEの必要性を理解いただき、設立について同意を得るために、国立大学については国立大学医学部長会議の杉浦哲郎常置委員会委員長（当時）が、公立大学へは荒川哲男AJMC会長（当時）が、大きな役割を果たした。また、私立医科大学の同意を得るために、寺野彰私立医科大学協会会長（当時）、小川秀興医学教育振興財団理事長の尽力があった。

JACMEの設立には、我が国の医学教育・医師養成に係る全ての組織を結集するというコンセプトがあり、そのためには医学部における卒前教育だけではなく、臨床研修病院を含めた卒前・卒後の一貫した医学教育・医師養成という観点から、医療研修推進財団の竹内勤理事長（当時、故人）、日本医師会の横倉義武会長、日本医学会の髙久史麿会長（当時）、日本医学教育学会の伴信太郎理事長（当時）にもお力添えをいただいた。もちろん、AJMCには、設立時の経済的支援を含め、多大な支援をいただいている。

過去の話を種々述べたが、JACMEが我が国の医学教育・医師養成に係る多くの方々の努力の結集によって生まれ、支えられていることを記し、またJACMEが着実に発展し続けることを祈念して、巻頭言としたい。

目次

巻頭言
「わが国の医師養成に係る関係者の総意によって誕生したJACME」…P.1
特集1「国際分野別認証評価事始め」……P.2
特集2
「世界各国における医学教育質保証の取り組み」…P.5
JACMEからお知らせ……P.7

1 国際分野別認証評価事始め

吉岡 俊正［日本医学教育評価機構 総務･渉外委員会委員長］

2015年に日本医学教育評価機構（JACME）が設立され、2017年に世界で7番目に世界医学教育連盟（World Federation for Medical Education, WFME）から国際医学教育分野別評価機関として認知されたことは、日本の高等教育、医学教育の快挙である。JACME設立の数年前までは国際的基準による評価制度について「黒船」と揶揄され、あたかも外国の制度を日本に強制するような認識もあった。それでも、教育の質保証の必要性、国際的基準について各医科大学、行政、関連する団体等から理解と支援を受け、他国がもたついている間に国際的に模範となるような制度を作りあげることができた。これは長年にわたって積み上げられてきた日本の医療と、医学教育が国際的に信頼されていた地盤があった上に、関係者の一体となった協力と努力の成果といえる。

■医師の国際間の移動と医学教育質保証への動き

鎖国していた江戸時代から大正時代にかけて黒船、明治維新、国際連盟加入と国際化した日本であるが、医学教育も昭和時代の国内完結から平成、令和にかけて国際基準に基づく分野別評価へと変革してきた。「黒船」の衝撃があった2010年以降の分野別認証評価制度の確立に至る経過については本ニュースレター第1号で述べられているので、ここでは「黒船以前」の状況にかかわった経験を日本の医学教育分野別評価の先史として述べてみたい[(1)]。

筆者が医学教育質保証にかかわるようになったのは、2001年ごろからであった。当時WFMEによる国際的に医学教育質保証を統一する動きがあった。WFMEは、世界医師会 World Medical Association（WMA）、そして世界保健機構 World Health Organization（WHO）、Educational Commission for Foreign Medical Graduates（ECFMG）、そしてInternational Federation of Medical Student Associations（IFMSA）などが参画して1973年に発足した。最初の本部は米国メリーランド州ベセスダに置かれた。当初は医学教育の情報交換等が行われていたようである。20世紀終わりから21世紀にかけて、医師の国際間移動が盛んになり、医学基本的教育（日本における学部教育）のレベルが国家間で異なる、すなわち質的格差があることが問題となってきた。とくに医師を輸入することの多い国、先進国でも途上国でも、他国の医科大学を卒業して自国の医療を担う人材がどのような教育を受けてきているかは医療の質につながる重要な問題と捉えられた。米国は医師の30%以上が国外大学卒業者であり、自国の医療レベルにかかわる重大な関心事としてWFMEを通じて国際的な医学教育の基準を定める方向を提言した。Hans Karle WFME第3代会長（コペンハーゲン大学教授）は本部をデンマークのコペンハーゲンに移し医学教育グローバルスタンダードを策定した。グローバルスタンダードの原案は各国の有識者が集まり議論をしながら作られた。日本からは細田嵯一東京女子医科大学名誉教授が参加した。筆者は原案を日本の医科大学で適応できるかについて2001年に細田先生より諮問をうけ、自大学の状況を当てはめて検討し概ね当てはまるのではないかと回答した。しかし、耳新しい分野別評価にかかわる用語も多く解釈に難渋し、また個人で限られた資料を基に検討したので十分な分析ではなかった。

■分野別評価の国際的な動向と日本の状況

その後WFMEは基本的医学教育（日本における学部教育）の分野別評価基準とともに、卒後教育プログラム（日本における卒後研修教育）および生涯学習プログラムの基準を策定し2003年に公開した。

このような世界の動向の中で、筆者は2003年の西太平洋地域医学教育連盟（Association for Medical Education in Western Pacific Region, AMEWPR）会議に初めて参加しその場で会長に選任された。この北京で開かれた会議では、WFMEからHans Karle会長が出席し、グローバルスタンダードについて解説を行い、さらに今後分野別認証を国際的に展開するので、西太平洋地域各国への普及を要請された。当時、日本では機関別認証評価制度が確立した時期で、1巡目の認証評価が行われていた。分野別評価は高等教育評価の専門家の間で限定的に検討されたのみであった。日本に戻り、行政、学会、医科大学関係者と話をしても分野別評価、国際基準についての関心は乏しかった。一方AMEWPRに参画している中国、台湾、そして韓国では分野別認証制度が計画あるいは実施され、グローバルスタンダードの導入も検討されており、日本はまさに「鎖国」状態であったといえる。日本の医療は、薬物や医療機器は国外依存性が強いが、医師を含む医療者、医療制度は自己完結的に提供されるので、国際動向の影響を受けにくいといえる。AMEWPRの会長は自動的にWFMEの理事にな

るために、会長就任後は毎年WFMEの理事会に出席し、日本との格差を認識しながら国際的な情報に接した。当時のWFME会議では、Hans Karle会長のもとにグローバルスタンダードをどのように国際的に普及していくかを議論した。英国、EU、米加がそれぞれ医学教育分野別認証評価制度を持つ中で、WFMEがどのように機能するかについて検討された。WFMEは小さなNGOであり、世界全体の医科大学の認証評価を行う規模は無かった。そのため各国の分野別認証評価制度の中でグローバルスタンダードを照覧し、グローバルスタンダードに沿い適正な評価を行える認証評価機関をWFMEが認知し、認知された評価機関による認証評価に適合すれば、国際認証する制度を検討した。WFMEに参画しているECFMGはこの動向を強力に支援し、当時の会議でECFMGの機構長が将来米国は米国外の医科大学の国際認証を義務化するような発言があったが、個人的には当分先のことと考えていた。結果としてこの考えは誤っていた。

AMEWPRの会長は2期務め2010年に韓国のDucksun Ahn教授（韓国医科大学教授、韓国医科大学認証機構長）に引き継いだ。この間、西太平洋地域各国では国際評価についての関心が高まり2009年にフィジー共和国、2011年にモンゴル国の医科大学の外部評価を依頼され、主査および評価委員としてグローバルスタンダードに基づく外部評価を行った。当時はまだ国際認証評価制度が確立していなかったが、評価団がメディアでも紹介され、「評価を受けた医科大学卒業生は国際的に通用するライセンスを持つことになるのか」などと誤った質問を受けたりした。このような国際的な動向に日本は取り残されそうな状況であったが、これを覆したのが2010年9月のECFMGの通告であった。2023年以降はLiaison Committee on Medical Education（LCME）またはWFMEスタンダードによる認証を受けていない医科大学卒業生を米国は受け入れないという内容で、これを「黒船」と捉えて日本での医学教育分野別評価の体制づくりが始まったといえる。しかし実際は、これまで述べた国際的な医学教育質保証の必要性がWFME、WHO、WMAなどで国際問題として議論され、WFMEの活動と連動して米国の医療の質を守るためにECFMGの通告がなされたというものであった。日本では「黒船」のイメージが先行し、認証を受けるための外部評価と取り違えられがちであるが、日本での制度確立に当たり各大学の自律的な教育改善による教育の質保証のための制度とならなければならないことを会議でも話し合われた。

■東京女子医科大学の国際外部評価への取組み

筆者はECFMGの通告よりも前から、日本において早期に制度を立ち上げ、日本の大学の質保証を世界にも認知してもらう必要を感じていたので、言葉で説明を繰り返すより、実際にグローバルスタンダードによる評価を分野別評価の実例として公開する計画を自校で行う計画を立てた。当時教務委員長をしていた東京女子医科大学医学部で学長・学部長そして学部に理解を得て、さらに平成22年度大学教育・学生支援推進事業大学教育推進プログラム「国際基準の医学教育実践と質保証」に採択され国際外部評価を行う準備をしていたが、いわゆる事業仕分けで補助金が中止となった。それでも2011年にはグローバルスタンダードに基づくカリキュラム改革を開始し、当時の理事会、学長の理解のもとに自己資金により国際外部評価を実現したいと考えていた。2012年から文部科学省大学改革推進事業「国際基準に対応した医学教育認証制度の確立」に参画することとなり、国際外部評価費用の一部に充てることができたのは僥倖であった。2012年10月にWFME、LCMEなどを考慮した国内外の評価者を指名招聘し5日間の外部評価を行った。5名の外部評価者のうち1名は日本からの評価者（奈良信雄東京医科歯科大学教授）を指名し、今後の分野別評価制度確立のための示唆を得ることにした。外部評価に先立ち新カリキュラムについてグローバルスタンダードに基づき自己点検評価を行い国際外部評価のために英訳した。この時に作成した自己点検評価の書式、実地調査における分野ごとの評価委員による聞き取り調査、施設・授業見学、教職員学生と評価者の面談、そして外部評価日程などは、翌年以降に行われたトライアルの原型となり、現在のJACMEによる分野別評価制度に引き継がれている。国際外部評価を今後日本で制度化する分野別評価に役立てるために行政、全国医学部長病院長会議、日本医学教育学会などからもオブザーバーを招待し、評価のプロセスを公開した。評価者の大部分が国外からであったので、自己点検評価書だけでなく、関連資料、規程等を英訳し、外部評価者との討論も英語で行われた。発表者は医学の専門家ではあるが、普段の研究診療とは違って、医学教育について英語で説明し討論するのは大変であった。日本の全ての医科大学が受審する制度となるには、日本語で審査が行われないと普及しないと考えられた。実地調査終了後、外部評価団から評価報告書を受領し、自己点検評価書とともに外部評価書も公開した。新カリキュラム、教育体制はグローバルスタンダードに適合するという全体の評価結果であったが、いくつかの小項目、例えば患者と接する学修時間、行動科学教育、学生の教育および教育評価への主体的参画などの指摘を受け、日本の医学教育では認識の低い領域があることが明らかとなった[(2)]。

■医学教育分野別評価の確立と日本医学教育評価機構の設立

東京女子医科大学医学部が国際外部評価を受けた平成25年には第2期教育振興基本計画として「高度専門人材の育成に向けて，大学及び高等専門学校における分野別質保証の構築・充実に向けた取組を促進する」ことが閣議決定された。文部科学省大学改革推進事業「国際基準に対応した医学教育認証制度の確立」により、2013年からは日本において国際的に認知される分野別評価制度を確立するための、事業参加校における自己点検および外部評価のトライアルが開始された。これ以降の経緯は別に報告されているが、迅速な制度確立が行われ、日本医学教育評価機構（JACME）が設立されWFMEからの認知を得られた。ゼロからの制度確立ではあったが、ここまで述べたように「黒船」以前からの認識を持ち分野別評価の先行実施の経験もあり、さらに行政、各医科大学、関連団体、大学改革推進事業関係者そしてJACMEの共通の意識と協働があり、先行していた他国よりも先に認知される結果となったといえる。

このような黎明期を経て制度が確立し、現在分野別評価の1巡目が進行しているが課題も抱えている。制度が始まる前は世界でもトップの医療水準、制度をもつ我が国の医科大学の医学教育はグローバルスタンダードに対して大きな欠陥はないと考えていたが、現在認定取り消しあるいは審議停止となっている大学が複数ある。国際的な視点からは日本の医学教育全体に対する信頼、医学士学位授与の妥当性にかかわる問題である。大学およびJACMEの慎重な対応が求められる。大学はAcademic Freedomを有し、Freedomを活用し良い教育、研究に取り組むことが国際基準にも定められている。同じことを繰り返すのは停滞であり、良い教育、研究の実践（Good Practice）とはみなされない。大学が社会そして国際的に見ても、自律的に良い教育、研究に取り組み、成果を出していることを示すことがグローバルには求められ、国際的な質保証の概念が形成されてきた。外部の認定を受けることが質保証ではなく、それぞれの大学教育研究の継続的な変革、改善があり、その改善が大学の使命、社会からの要請に応えていることを確認することが質保証である。日本の医学教育分野別評価制度が、早期に国際的に認知されたということは、基盤に日本の医療、医学教育への国際的な信頼があったと考えるが、この信頼を揺るがすことのないように、各大学の自律的な教育研究の改善と、その成果の国際的基準による適正な評価を進めていかなくてはならない[(3)]。

さらに今後JACMEもまた国際的認証評価機関として機能することが国際的には期待されると考える。すでに、海外から分野別評価についての照会があったようだが、認証評価機関を持たない国では、国外の国際的に認知された分野別評価機関に評価を委ねることになる。筆者がフィジーやモンゴルで行った国際外部評価を、JACMEが国際的認証評価機関として分野別評価を行うことが考えられる。医療のグローバル化が進むなかで、日本の国際的な役割としてJACMEが医療の基盤となる医学教育の質保証について国際的責任を果たすことが問われる。

【参考文献】(1) 奈良信雄：JACME発足の経緯と展望、JACME News Letter 1;1-3, 2017.　(2) 吉岡俊正：国際基準に基づいた医学教育の実践. 大学評価研究 13:61-67, 2014.
(3) 吉岡俊正：医学教育の国際基準、J. Integrated Med. 22:24-27, 2012.

【参考】
「ECFMGの通告」が医学教育分野別評価の端緒となった

医学教育分野別評価の問題が浮上したのは、2010年9月に米国 外国医学部卒業生のための教育委員会（ECFMG）から出された発表です。
その内容は、「2023年以降は、ECFMGのcertificationにアプライできるのは、アメリカ医科大学協会医学教育連絡会議（LCME）が決めた評価基準、あるいは世界医学教育連盟（WFME）のStandards for Basic Medical Educationの基準で認証を受けた医学部の卒業を要件とする」というもので、その目的は、医学部の認証制度を導入することによって、一般大衆を守る力を高められる、と結論づけられた、とされています。

ECFMGの通告—September 21, 2010

REQUIRING MEDICAL SCHOOL ACCREDITATION FOR ECFMG CERTIFICATION—MOVING ACCREDITATION FORWARD
In July 2010, the Educational Commission for Foreign Medical Graduates (ECFMG®) determined that, effective in 2023, physicians applying for ECFMG Certification will be required to graduate from a medical school that has been appropriately accredited. To satisfy this requirement, an applicant's medical school must be accredited through a formal process that uses criteria comparable to those established for U.S. medical schools by the Liaison Committee on Medical Education (LCME) or that uses other globally accepted criteria, such as those put forth by the World Federation for Medical Education (WFME).
＜中略＞
After several years of discussions, the ECFMG Board of Trustees has determined that it can enhance its protection of the public by incorporating medical school accreditation using globally accepted criteria into ECFMG's requirements for certification of international medical graduates (IMGs). Recognizing, however, that the efficacy of such a requirement depends on a universally accepted accreditation process, which does not currently exist, this requirement is not scheduled to take effect until 2023.
＜後略＞

(http://www.ecfmg.org/forms/rationale.pdf, accessed Sep 22, 2015)

2 世界各国における医学教育質保証の取り組み

奈良 信雄［日本医学教育評価機構 常勤理事］

はじめに

高等教育の質保証は、あらゆる領域・分野において重要である。中でも、国民の健康を守る重責を担う医師を育成する医学部教育の質保証はとりわけ重要で、多くの国で医学教育の質を保証する取り組みが実践されている。その歴史は古く、アメリカで営利目的で医学校が乱立していた20世紀初頭に遡る。当時のアメリカでは、教員も、施設・設備も不十分なままで教育が行われ、適格性の劣る医師が輩出されていた。この状況を憂えたAbraham Flexnerが医学校の評価を行い、不適切な教育を行っていた医学校は淘汰されていった。

以来、医学教育の質が保証された医学部で医師を育成することが各国での共通認識になっている。本稿では海外における医学教育評価の現状を紹介したい。紙面の都合もあり、筆者自身が実際に訪問して調査研究した評価機関について記載する。その他の国を含め、世界各国の医学教育評価機関については世界医学教育・研究推進財団（Foundation for Advancement of International Medical Education and Research: FAIMER）に登録[1]されているので、参照していただきたい。

1）医学教育評価における世界医学教育連盟の位置づけ

医学教育の質保証を国際的に推進する組織として世界医学教育連盟（World Federation for Medical Education: WFME）[2]がある。WFMEは世界保健機構WHOの下部組織で、医師養成のあり方を国際的視野に立って検討し、提言している。医師の養成には、医学部教育だけでなく、卒後研修、専門医教育、生涯教育といったシームレスな教育が欠かせない。このためWFMEでは、それぞれの教育課程で求められる評価基準を国際レベルで策定し、公開している。

WFME自体は医学部個々の評価を行うのではなく、各国にある評価機関に対して国際レベルに適っているかどうかを評価し、認証している。WFMEの認証を受けた評価機関が自国の医学部を評価し、その上で認定された医学部は国際標準の教育を行って国際的に通用する医師を輩出していると判定される仕組みになっている。

日本では、2015年12月1日に日本医学教育評価機構（Japan Accreditation Council for Medical Education: JACME）が発足し、2017年3月18日にWFMEから国際的に通用する医学教育評価機関として認証を受けた。世界で7番目の認定であるが、他国の評価機関が概ね20年以上も前からスタートしていることを考えると、2011年から準備を始めて認証されたことは異例の速さと誇ってよい。WFMEの認証を受けたJACMEが評価し、認定した医学部の卒業生は国際的に標準の教育を受けていることが証明されることとなった。なお、2019年6月現在、世界で20評価団体がWFMEの認証を受けている（表1）[2]。

2）海外諸国における医学教育質保証制度

1. アメリカ・カナダにおける医学教育質保証

アメリカでの医師養成はMedical School（College of Medicine）とCollege of Osteopathyによって行われ、両者合わせて186校ある（2018年現在）。

1910年のFlexnerレポート以来、1919年には全米医師連合（American Medical Association: AMA）と全米医学校協会（American Association of Medical Colleges: AAMC）の合同チームによる査察が医学校に対して行われ、教育の質保証の取り組みが始まった。1942年にはAMAとAAMCが共同して設置した医学教育連絡調整委員会（Liaison Committee on Medical Education: LCME）が医学校の評価を担当し、医学教育の質を保証することとなった[3]。

評価は8年毎に行われ、受審医学校による自己点検評価と、学生が独自に実施する教育プログラムの分析と報告を踏まえ、評価チームが実地調査を行って評価している。アメリカでは、医学部教育だけでなく、研修医教育、専門医教育、生涯教育に対する評価体制があり、シームレスな医学教育の質保証制度がある。

なお、アメリカの隣国であるカナダにも医学教育評価を担当する組織としてカナダ医学教育評価委員会（Committee on Accreditation of Canadian Medical Schools: CACMS）があり、LCMEと協調しながら医学教育の質を保証している[4]。

2. イギリスにおける医学教育質保証

イギリスには医学部が55校あり（2018年）、総医学協議会（General Medical Council: GMC）が卒前、卒後、生涯にわたる医学教育の質保証を担当している[5]。医師国家試験制度がないイギリスでは、とりわけGMCによる医学教育の質保証が重要な意義を持っており、1995年からの非公式な実地調査以降、医学教育評価が実施されている。卒

前医学教育の評価については、Tomorrow's Doctors（1993年初版）、さらに現在のOutcomes for Graduates（2015）の記載に基づいて評価基準が設定されている。

各医学部は、Outcomes for Graduatesに基づいて自己点検評価を行い、学生や一般市民を含めた評価チームが1年間にわたり各医学部の学事に合わせて8回程度の頻度で実地調査を行って医学部を評価している。評価チームが作成した外部評価報告書はGMCで審議され、①Good Practiceと②要改善点があげられ、公開される仕組みになっている。GMCによる評価は、5年毎に実施される。

3. オーストラリアにおける医学教育質保証

オーストラリアには医学部が21校あり（2018年）、オーストラリア医学協議会（Australian Medical Council: AMC）が医学部の評価を担当している[6]。AMCも医学部教育だけでなく、卒後研修、専門医教育、生涯教育について評価基準を設定している。医学部教育については、2012年に公表された評価基準に則り、受審医学部は自己点検評価を行った上でAMC評価チームによる実地調査を受ける。AMCによる評価の目的は、専門家による評価を通じて助言や提言を行い、それによって医学教育の向上に貢献することにある。

4. 韓国における医学教育質保証

韓国には医学部が41校ある（2018年）。韓国では、韓国医学教育・評価機構（Korean Institute of Medical Education and Evaluation: KIMEE）の下に医学教育評価委員会（Accreditation Board for Medical Education: ABMEK）が組織化され、1999年から4～6年に一度の頻度で医学部の評価を実施している[7]。KIMEEによる評価基準は概ね10年以内の周期で改変されることになっている。KIMEEの基準に基づく自己点検評価には、根拠に基づく過去2年間の現状分析に続き、必須水準、推奨水準、卓越した水準が必要に応じて記載される。7名から構成される評価チームが実地調査を行い、医学部教育を評価している。なお、1校は医学部教育が基準に適合しないとして認定されず、廃校になった。

おわりに

多くの諸外国において、医学教育評価機関が設置されている。それらの評価機関は、受審医学部の自己点検評価による内部質保証、第3者評価による外部質保証により、各医学部の教育プログラムを見直し、改善して教育の質を保証している。すなわち、評価を通じて各医学部におけるPDCA（Plan-Do-Check-Act）サイクルを支援することに意義がある。

JACMEは国内の医学部を評価し、2019年6月現在において、31医学部を認定してきた。受審医学部では自己点検評価、外部評価を受ける過程で、教育プログラムにおける課題が抽出されていない。それらの課題を逐一解決し、改善を図ることで医学教育のレベルが向上すると考えられる。今後は我が国の医学教育を世界に発信し、国際レベルでの医学・医療の向上、さらに全世界における健康の維持、増進に貢献することが期待される。

【参考文献】
(1) Directory of Organizations that Recognize/Accredit Medical Schools (DORA). https://www.faimer.org/resources/dora/index.html
(2) World Federation for Medical Education (WFME): WFME Recognition Programme. http://wfme.org/accreditation/recognition-programme/
(3) Liaison Committee on Medical Education (LCME): Programmatic Accreditation vs. Institutional Accreditation. http://lcme.org/about/programmatic/
(4) Committee on Accreditation of Canadian Medical Schools (CACMS): Accreditation. https://afmc.ca/accreditation
(5) General Medical Council (GMC): How we quality assurance: the Quality assurance framework. https://www.gmc-uk.org/index.asp
(6) Australian Medical Council Limited(AMC): https://www.amc.org.au/accreditation
(7) Korean Institute of Medical Education and Evaluation (KIMEE): KIMEE leads to desirable Medical Education. http://www.kimee.or.kr/en/kimee-2/

【図表】表1. 世界医学教育連盟（WFME）の認証を受けた各国医学教育評価機関（2019年6月現在）

評価機関名	所属国名	認定期間
1. Caribbean Accreditation Authority for Education in Medicine and Other Health Professions (CAAM-HP)	Countries of the Caribbean Community, CARICOM	May 2022
2. The Association for Evaluation and Accreditation of Medical Education Programs (TEPDAD)	Turkey	July 2023
3. Committee on Accreditation of Canadian Medical Schools	Canada	April 2024
4. Liaison Committee on Medical Education (LCME)	United States of America	April 2024
5. Korean Institute of Medical Education and Evaluation (KIMEE)	Republic of Korea	September 2026
6. Accreditation Commission on Colleges of Medicine (ACCM)	Selected Caribbean countries	December 2026
7. Japan Accreditation Council for Medical Education (JACME)	Japan	March 2027
8. Australian Medical Council (AMC)	Australia and New Zealand	January 2028
9. Independent Agency for Accreditation and Rating (IAAR)	Kazakhstan	January 2028
10. Sudan Medical Council (SMC)	Sudan	June 2028
11. National Center for Education Quality Enhancement(NCEQE)	Georgia	October 2028
12. Institute for Medical Education Accreditation (IMEAc)	Thailand	October 2028
13. Indonesian Accreditation Agency for Higher Education in Health (IAAHEH/LAM-PTKes)	Indonesia	October 2028
14. Accreditation Organisation of the Netherlands and Flanders (Nederland-Vlaamse Accreditatieorganisatie) (NVAO)	Netherlands and Flanders	November 2028
15. Mexican Board for Accreditation of Medical Education (Consejo Mexicano para la Acreditación de la Educación Médica)(COMAEM)	Mexico	April 2029
16. National Authority for Quality Assurance and Accreditation of Education (NAQAAE)	Egypt	April 2029
17. System of Accreditation of Medical Schools/Sistema de Acreditação de Escolas Médicas (SAEME)	Brazil	April 2029
18. Taiwan Medical Accreditation Council (TMAC)	Taiwan	April 2029
19. Secretariat of the Council for Undergraduate Medical Education (SCUME)	Iran	June 2029
20. Commission for Academic Accreditation (CAA)	United Arab Emirates	June 2029

JACMEからお知らせ

1 奈良常勤理事がWFME 2019 World Conferenceにおいて講演

4月7日（日）～10日（水）に韓国ソウルで開催された世界医学教育連盟（WFME）総会に奈良信雄常勤理事が招請され、基調講演で「The Development and Utility of an Accreditation System of Medical Education」と題してJACME設立の経緯と、進捗状況、さらに有用性を発表しました。総会には世界57カ国から810名以上が参加しました。WFMEのDavid Gordon会長、ECFMGのWilliam Pinsky会長（写真）らも出席しており、日本における「医学教育質保証制度」のあり方を世界に発信することができました。

2 韓国医科大学協会 Han会長一行が理事長表敬訪問

4月25日（木）に韓国医科大学協会 Hee Chul Han会長一行の表敬訪問を受けました。

一行はHan会長の他、国際部長のLee教授、事務局長のRhyu教授、事務局のKwon部長、マネージャーのLee氏の5名。当機構から髙久史麿理事長、奈良信雄常勤理事、服部雄幸事務局長が応対し、日韓両国における教育システム等について懇談しました。

3 モンゴル国立質保証機関一行が当機構において研修

5月17日（金）にモンゴル国立質保証機関一行が、当機構において、我が国の教育質保証制度について研修を受講しました。一行は、Ariunbold Jaaljav副所長と評価専門員7名の他、事務職員、教育省専門官、在日モンゴル大使館二等書記官の11名で、大学基準協会の国際協力事業の一環として来日したもの。奈良信雄常勤理事が日本の医学教育評価システムについて講演しました。

4 新役員・部会長・委員長が決定しました

去る6月24日に開催された社員総会において新役員・部会長・委員長が選任されました。

理事長	髙久史麿（日本医学会連合名誉会長）
副理事長	伴　信太郎（愛知医科大学医学教育センター長）
副理事長	別所正美（埼玉医科大学学長）
副理事長	山下英俊（全国医学部長病院長会議会長）
常勤理事	奈良信雄（日本医学教育評価機構常勤理事）
理事	小川　彰（岩手医科大学理事長）
	片岡寛章（宮崎大学医学部長）
	河邊博史（医療研修推進財団理事長）
	北川昌伸（東京医科歯科大学医学部長）
	齊藤延人（東京大学医学部長）
	鈴木康之（日本医学教育学会理事長）
	寺野　彰（日本私立医科大学協会会長）
	友田幸一（関西医科大学学長）
	中尾篤人（山梨大学医学部長）
	松藤千弥（東京慈恵会医科大学学長）
	三浦哲嗣（札幌医科大学医学部長）
	山口育子（ささえあい医療人権センターCOML理事長）
	横倉義武（日本医師会会長）
監事	小川秀興（医学教育振興財団理事長）
	岡村吉隆（和歌山県立医科大学名誉教授）
	森山　寛（東京慈恵会医科大学名誉教授）

部会長

総合評価部会部会長	奈良信雄（日本医学教育評価機構常勤理事）
企画運営部会部会長	福島　統（東京慈恵会医科大学教授）

委員長

評価委員会委員長	奈良信雄（日本医学教育評価機構常勤理事）
基準・要項検討委員会委員長	北村　聖（地域医療振興協会シニアアドバイザー）
研修委員会委員長	泉　美貴（昭和大学教授）
異議審査委員会委員長	岡村吉隆（和歌山県立医科大学名誉教授）
総務・渉外委員会委員長	吉岡俊正（前東京女子医科大学理事長）
財務委員会委員長	福島　統（東京慈恵会医科大学教授）
調査・解析委員会委員長	椎橋実智男（埼玉医科大学教授）
広報委員会委員長	鈴木利哉（新潟大学教授）

5 2019年度 医学教育分野別評価認定状況

当機構では、認定が確定した大学を公表しています。医学教育分野別評価は、書面調査及び実地調査により実施しています。書面調査は各医学部・医科大学が作成した自己点検評価報告書及び根拠資料等の精査により実施し、実地調査は、書面調査では確認できなかった事項について調査します。認定結果の詳細については、当機構ホームページの「認定大学情報」をご覧ください。

（2019年6月現在）

大学名	認定期間
鳥取大学	2019年6月1日～2026年5月31日
徳島大学	2019年6月1日～2026年5月31日
香川大学	2019年6月1日～2026年5月31日
宮崎大学	2019年6月1日～2026年5月31日

6 2018年度決算が承認されました

2018年度決算が6月24日に開催された社員総会において承認されました。

〈2018年度決算の概要〉

収入	決算額
会費収入	83,000,000
賛助会費収入	900,000
評価手数料収入	58,212,000
雑収入	853
前年度繰越金	30,345,373
計	172,458,226

支出	決算額
総合評価事業費	9,281,313
評価事業費	48,662,019
機構運営費	46,152,961
予備費	68,361,933
計	172,458,226

（単位：円）

〈2018年度事業報告の概要〉

機構の目的を達成するため、2018年度は以下の組織体制及び事業態勢の整備を行いました。

1. 評価基準及びマニュアル等の作成
2. 医学教育分野別評価事業の実施
3. 評価員養成ワークショップ等の開催
   (1) 評価員養成ワークショップ　(2) 事務担当者説明会　(3) 2巡目の実施に関する説明会
4. 公正・適正な評価システムの確立のための調査・研究
5. 広報活動の推進
6. 財務基盤の強化
7. その他
   (1) 理事会、社員総会の開催　(2) 部会・委員会の開催　(3) 事務局の整備

JACMEの詳しい情報は今すぐホームページへアクセス！

当機構の概要や評価事業の内容、医学教育分野別評価基準日本版、受審要項、認定大学の情報などを掲載しています。

https://www.jacme.or.jp/

現在ご協力いただいている賛助会員

公益財団法人医療研修推進財団
株式会社医学書院
医歯薬出版株式会社
中外製薬株式会社
株式会社ツムラ
株式会社日本医事新報社
株式会社羊土社

（50音順）

■お問い合わせ窓口

日本医学教育評価機構事務局　担当：服部・齋藤
〒113-0034
東京都文京区湯島1-3-11 お茶の水プラザビル6F
TEL:03-5844-6736　E-mail:info@jacme.org

編集後記

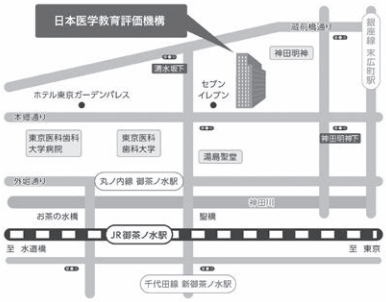
山口 久美子［東京医科歯科大学・講師］

今号は「国際」をテーマといたしました。『巻頭言』では副理事長別所正美先生にJACME設立の流れについてご執筆いただきました。『特集1』では総務・渉外委員会委員長吉岡俊正先生に2010年9月のECFMGの通告以前の国内外の分野別評価についても解説いただきました。『特集2』では常勤理事奈良信雄先生に、海外諸国における医学教育質保証についてご執筆いただきました。分野別評価の認定が確定した大学は31にまで増えました。ホームページの情報は随時更新しておりますので、ご参照ください。

【編集発行】

JACME 一般社団法人 日本医学教育評価機構

広報委員会
委員長：鈴木 利哉　委員：平形 道人、高木 康、神代 龍吉、山口 久美子
〒113-0034　東京都文京区湯島1-3-11　お茶の水プラザビル6F
TEL:03-5844-6736　FAX:03-5844-6737
https://www.jacme.or.jp/　E-mail：info@jacme.org

【JACME Office】

- JR中央線「御茶ノ水」駅 徒歩5分
- 東京メトロ丸の内線「御茶ノ水」駅 徒歩5分
- 東京メトロ千代田線「新御茶の水」駅 徒歩6分
- 東京メトロ銀座線「末広町」駅 徒歩8分